

位置情報インフラの安定的なサービス提供

1. 背景・目的

GPSをはじめとするGNSS※（全球測位衛星システム）の連続観測を行うGNSS連続観測システム（GEONET）は、地震調査研究推進本部において地震調査研究のための基盤的観測として位置づけられ、平成23年東日本大震災では、水平で最大5.3m、上下で最大1.2mの地殻変動を観測し、地盤沈下に伴う高潮への注意喚起に活用されるなど、国民の安全・安心の確保に貢献している。また、箱根山、口永良部島や桜島のような活発な火山の地殻変動を監視することにより、防災関係機関が火山活動の評価を行う上で重要なデータを提供している。

GEONETを構成する電子基準点は、我が国の位置情報の基準であり、基本・公共測量や復旧・復興事業においても不可欠なインフラである。また、観測したリアルタイムデータは民間に開放され、情報化施工等の高度化を支えている。

このように近年、電子基準点は防災や測量、測位等に不可欠な位置情報インフラになっており、リアルタイムでの安定的な運用が利用者から強く求められている。また、測量の効率化や都市部での適用範囲拡大のため、準天頂衛星（日本）、GLONASS（ロシア）、Galileo（欧州）をはじめとする新たなGNSSのデータ取得も求められている。このため、インフラとなる電子基準点及び解析システムにおいて利用者が必要とするGNSSデータを安定的に取得・改良・提供できるよう、受信機等の維持管理を計画的に実施し、地殻変動情報を迅速に提供するための解析システムの改良を推進することが必要となっている。

※ 人工衛星からの信号を用いて位置を決定する衛星測位システムの総称

2. 事業の概要

電子基準点等の観測機器を計画的に更新し、正確な地殻変動を把握するための解析システムを改良することで、地震・火山活動監視や津波予測支援等を確実かつ迅速に行い、国土強靱化に貢献する。また、各種測量や情報化施工等の高度化を推進する。

3. 平成28年度要求額

国費 760百万円

4. 事業の効果

全国の電子基準点で観測した準天頂衛星やGLONASS、Galileoを含むGNSSデータが遅滞なく円滑に入手できるようになり、これらGNSSのリアルタイムデータを用いた解析システムの改良を進めることで、地震、火山活動時における地殻変動情報の迅速な提供や、巨大地震に伴う津波の予測の支援等が可能となる。これにより、迅速な避難誘導等が可能となり国民生活の安全・安心に貢献する。また、測量や測位、情報化施工等の効率化、高度化に寄与する。

(問い合わせ先)

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

国土交通省 国土地理院

測地観測センター

衛星測地課長

課長補佐

辻 宏道

佐藤 雄大

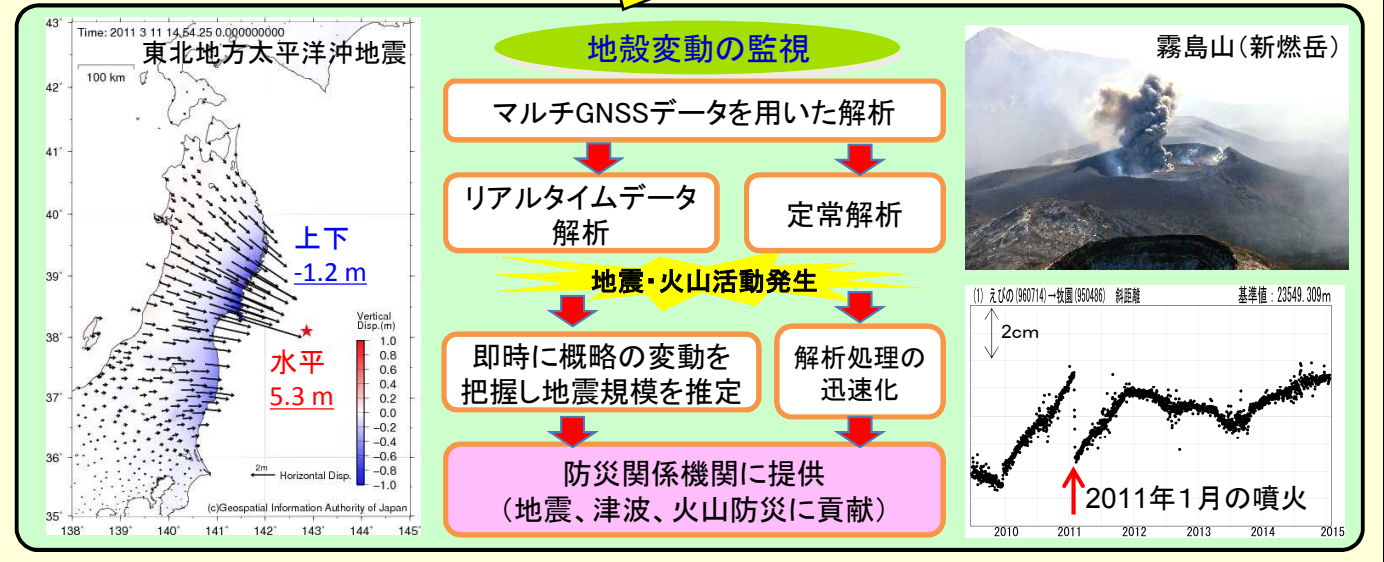
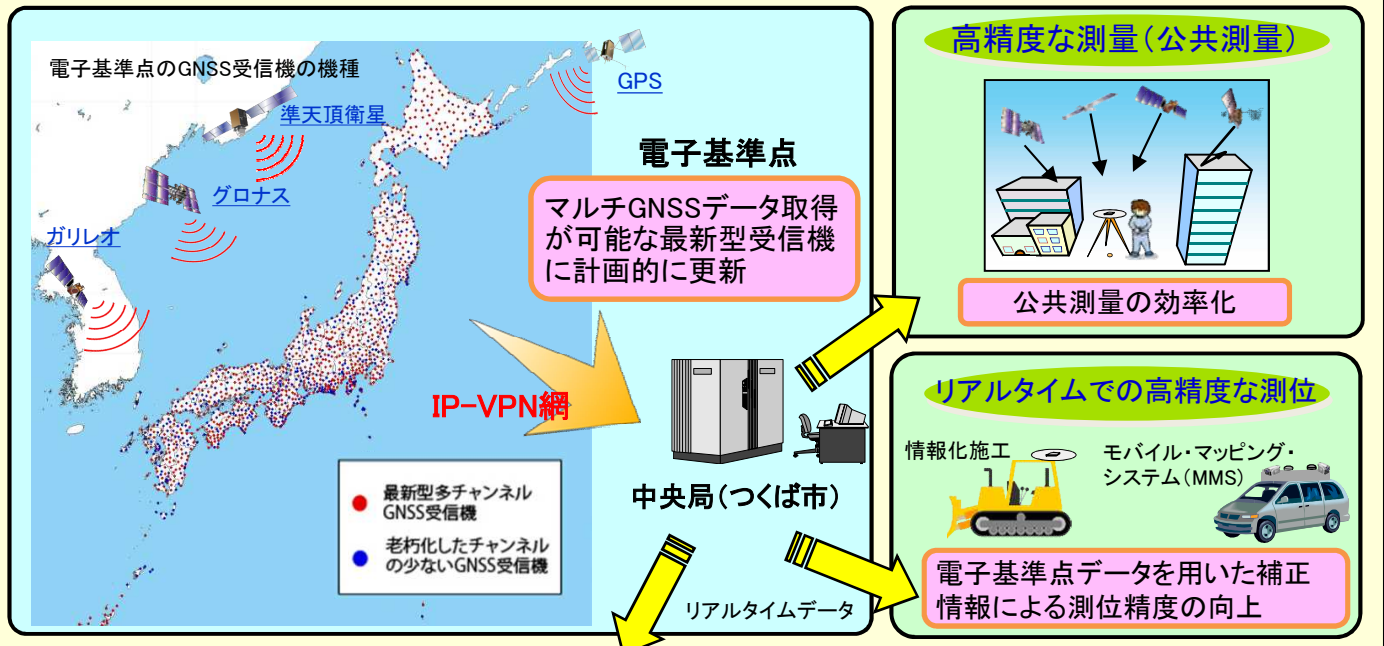
Tel 029-864-6951

Tel 029-864-6258

Fax 029-864-6864

位置情報インフラの安定的なサービス提供

電子基準点等の観測機器を計画的に更新し、正確な地殻変動を把握するための解析システムを改良することで、地震・火山活動監視や津波予測支援等を確実にかつ迅速に行い、国土強靱化に貢献する。また、各種測量や情報化施工等の高度化を推進する。



安定的なサービス提供

- 地殻変動情報の迅速な提供 ⇒ 安全・安心に貢献
- 多様なGNSSデータの提供 ⇒ 測量や測位の効率化、コスト削減を実現
- リアルタイムデータの円滑な提供 ⇒ 情報化施工等の高度化に寄与